

「失敗学」というものがある。最近、書店でも見かけるテーマであるからご存知の方も多いかもしいない。「失敗学」は工学院大学教授の畑村教授がNPO法人「失敗学会」を通じて提唱する学問である。

“失敗は成功の母”。失敗を繰り返すことで人間は成長する。同じ轍を踏まないためには、失敗を反省する謙虚さを持つとともに、原因追求をすることが重要である。普段、我々は目の前の結果だけを見て失敗の原因を類推するものだが、「失敗学」では、より正確な構造分析のために原因を《要因》と《からくり》に分けて考える。原因の構造をより細かく分析するのである。そして、この流れを「失敗の脈略」と呼ぶ。特に《からくり》の解明が重要な部分であり、どういう経緯で失敗が起こるかがわかれば他の問題解決にも役立てることが出来るのだという。「失敗学」では、目に見える結果から、まだ見えない原因を考えることを逆演算と呼ぶ。分析を通じて、問題の構造化を図ることにより同じ失敗を繰り返さないようにすることが「失敗学」の目的だ。

著者が感動したというラーメン屋は今までに百回を越える味の変更を繰り返してきたそうだ。しかも、毎日、客の反応を見ながら材料やブレンドの方法などを修正しているという。お客が求めているものを提供するという《からくり》があるからこそ客足がたえないという。

労働災害の発生確率に関する法則に「ハインリッヒの法則」というのがある。それによると、一件の重大な災害の背後には、二十九件の軽度の災害があり、ヒヤリハットの事例が三百件発生しているというのである。重大災害は三百二十九分の一という低い確率で発生するが、考えたいことは、ヒヤリハットの集積が必ず重大な事故の発生を招くということ。JR西日本の列車事故についても、企業風土や勤務体制に内在する問題が顕在化した。まさに著者が「失敗の拡大再生産」と呼んでいる事態に陥っている。

設計ミスやヒューマンエラーについてもふれる本書は「失敗学」の入門書として最適であり、ものづくりに役立つ発想が盛り込まれている。

利益創出＝黒字化は、こうすれば必ずできる!

BCS・購買原価低減

Buyers Cost Standard : 購買査定基準

＝購買査定基準の見直しで確実な『外注コスト低減』を実現します!!

国際競争の激化、収益性の低迷にどう打ち勝つか？ 購買コスト削減化の対策は十分でしょうか。組立産業では製造原価の70～80%が外注コストとも言われており、コスト査定基準の見直しが急務となっています。購買査定基準(BCS)の整備により、ネット活用での購買事務の推進、業者との共同コスト改善、技術談義のできる体系的なバイヤー教育が可能になります。



テクノ経営総合研究所 PVCコンサルタント

原田 孝 はらだ たかし

(社)全日本能率連盟認定マスターマネジメントコンサルタント。大手住宅関連メーカーで研究開発、製造本部、TQC推進等の管理職を歴任。経営コンサルタントとして日本の「モノ創り」を一貫して支援し続けて18年。改革プロジェクト指導を中心に長期指導企業は160社、経営診断企業は600社を上回る。上場企業から中堅企業まで幅広く改善コンサルティングを展開し導入企業より「現場が変わる!」と好評を得ている。京都大学卒。